

- 日米安保条約の廃棄、米軍基地撤去
- 自衛隊の海外派兵反対
- 独立・平和・非同盟の日本を

安保廃棄

第522号 2024年11月号
安保破棄中央実行委員会
 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-11-13 MMビル5F
 ☎ 03-3264-4764 FAX 03-3264-4765
 Eメール anpohaiki@nifty.com
 http://anpohaiki.news.coccan.jp/index.html
 毎月1回1日発行/定価100円 年間購読料1800円(送料含む)
 郵便振替 00120-3-253220

総選挙の結果をふまえ 平和を守る運動強化を

10月27日におこなわれた総選挙で自公与党は大きく議席を減らし、過半数を割り込みました。今回の選挙は、裏金問題で国民の支持を失った岸田前首相が政権を投げ出し、自民党総裁選挙を制した石破茂首相が、政権の実態が



沖繩一区で勝利した赤嶺さん

明らかになる前に国民の支持をかすめ取るように史上最短でおこなったものでした。国民は、裏金問題の解明をおこなわず、「電撃選挙」で自民党政治をリセットしようとする石破政権に信任を与えませんでした。

「民意を示した」「オール沖縄」と同じく国民は、予算委員会の開催など十分な国会審議をはじめ石破首相が総裁選での「公約」を次々と投票で増やせなかったことは残念な結果です。

「戦争国家づくり」を止めよう。私たちは、自民党総裁選の段階から、自民党政治の本質である金権腐敗と大軍拡・国民生活切り捨てを告発し、「自民党政治のリセットを許さない」ことを訴えてきました。

今回の選挙結果は、平和と国民生活を大切にする政治を実現するたかいに新しい条件を示しています。今後、切実な要求を実現する政治にむけて、市民の運動を強め、安保法制の廃止とともに、軍拡と「戦争国家づくり」を転換するため、来年の参議院選挙も見据えて、市民と野党の共同を草の根から強めることが喫緊の課題となっています。

新ブックレット 『自衛隊は いま— 米軍との一体化はどこまでできたか』

安保破棄中央実行委員会は、「安保がわかるブックレット」シリーズの25冊目として『自衛隊は いま— 米軍との一体化はどこまでできたか』を発行しました。

いま自衛隊は、アメリカによる対中包囲のインド太平洋戦略に組み込まれ、米軍との一体化に突き進んでいます。

日米軍事一体化は、兵器・装備、軍事作戦・訓練、宇宙、基地、軍需産業、指揮権、とあらゆる面で進められています。このブックレットでは、大変貌する自衛隊の実態をつぶさに明らかにします。

また、創設70年となる自衛隊の歴史を振り返り、「自衛隊はなぜつくられたか」を歴史的に検証し、米軍の補完部隊としてつくられ、「軍隊」となった日米軍事史の問題点を解明しています。

安保破棄中央実行委員会は、「戦争国家づくり」を許さず、自衛隊を「戦争する国の軍隊」にさせない運動を広げるための学習での活用を呼びかけています。

（A5判、64ページ。頒価500円）



「戦争国家づくり」に突

き進む自衛隊の実態を告発

また、創設70年となる自衛隊の歴史を振り返り、「自衛隊はなぜつくられたか」を歴史的に検証し、米軍の補完部隊としてつくられ、「軍隊」となった日米軍事史の問題点を解明しています。

安保破棄中央実行委員会は、「戦争国家づくり」を許さず、自衛隊を「戦争する国の軍隊」にさせない運動を広げるための学習での活用を呼びかけています。

（A5判、64ページ。頒価500円）

“アメリカ言いなり”政治と 今日の『日米同盟』

小泉親司
安保破棄中央実行委員会常任幹事

10月23日から11月1日まで、日米統合演習「キーン・ソード」(鋭い刃)が全国各地でおこなわれました。今回の演習は、周知のように総選挙のさなか強行されたもので、民主主義を問う選挙のなかでの軍事演習という異例のものとなりました。

民間施設や空港・港湾使用。今回の演習では、沖縄県民をはじめ南西諸島の島民を丸ごと戦争に巻き込むことを前提にし、民間施設や空港・港湾を使用する演習であることです。

オスプレイが訓練中に事故。今回の演習には、稀代の欠陥機オスプレイが参加し、自衛隊オスプレイも鹿屋自衛隊基地(鹿児島県)や与那国島で、「予防着陸」や接触事故を起こし、住民を危険に陥れています。



与那国島で10月27日に事故を起こしたオスプレイ

「台湾有事」を想定し、沖縄、南西諸島地域を中心に「キーン・ソード」演習の計画が約4割、鹿児島県が約2割と大半が沖縄周辺の離島での演習計画です。

民間施設や空港・港湾使用。今回の演習では、沖縄県民をはじめ南西諸島の島民を丸ごと戦争に巻き込むことを前提にし、民間施設や空港・港湾を使用する演習であることです。

オスプレイが訓練中に事故。今回の演習には、稀代の欠陥機オスプレイが参加し、自衛隊オスプレイも鹿屋自衛隊基地(鹿児島県)や与那国島で、「予防着陸」や接触事故を起こし、住民を危険に陥れています。

「日本再軍備」の中で、警察予備隊創設は「時代の大うそ」の始まりだと述べている。いわく「日本の憲法は文面通りの意味を持っていないと、世界中に宣言する大うそ、兵器も小火器・洗車・火砲・ロケットや航空機も戦力ではないという大うそ」と▼存命していればコワルスキーも驚くような事態だ。この問題を考えるため新刊ブックレット『自衛隊は いま— 日米軍事一体化はどこまでできたか』を活用してほしい。

ることを国民に周知徹底させることです。演習ではまた、那覇空港や全国の民間港湾を使った避難訓練などが盛り込まれています。しかし実際には、これらが自衛隊艦船ばかりか米軍艦船の使用を前提とした計画であり、日本周辺に補給基地をもたない米軍の肩代わりの基地となることは明らかです。

オスプレイが訓練中に事故。今回の演習には、稀代の欠陥機オスプレイが参加し、自衛隊オスプレイも鹿屋自衛隊基地(鹿児島県)や与那国島で、「予防着陸」や接触事故を起こし、住民を危険に陥れています。

「日本再軍備」の中で、警察予備隊創設は「時代の大うそ」の始まりだと述べている。いわく「日本の憲法は文面通りの意味を持っていないと、世界中に宣言する大うそ、兵器も小火器・洗車・火砲・ロケットや航空機も戦力ではないという大うそ」と▼存命していればコワルスキーも驚くような事態だ。この問題を考えるため新刊ブックレット『自衛隊は いま— 日米軍事一体化はどこまでできたか』を活用してほしい。